

令和2年度 城南学園小学校 学校評価のまとめ

1. 基本方針

建学の精神「自主自律（強く 正しい）」「清和気風（清く やさしい）」のもと、知・徳・体の調和のとれた円満な人間の育成を目指す。『実践力のある魅力ある人間』を育てるために、3つの柱（柱1—人間としての基礎・基本の徹底「実践力のある魅力ある子づくりをする」、柱2—学力の基礎・基本の徹底「進学校として、実績を上げる」、柱3—学ぶよろこび・活動するよろこびの徹底「明るく、安全、自主性のある学校にする」）をうち立て、徹底していく。さらに、3つの柱をより確かなものとするために、「子どもと教師の距離を縮める」「体力づくりにこだわる」の2つを実践していく。また、『一人一人がキーパーソン』を合い言葉に、よりよい環境をつくるため、教職員一人一人が積極的に関わっていく。

2. 中期目標

(1) 教育内容の充実（確かな学力・高い品性を培うために）

（確かな学力）

- ・アクティブ・ラーニングによる学習意欲、問題解決能力の向上。
- ・「英語を聞く・話す」力の向上（ネイティブの授業や英語体験学習を通して。）。
- ・中学入試レベルの漢字・計算の徹底習得。
- ・卒業までに500冊読破の豊富な読書体験。

（高い品性）

- ・明るくはきはきとした挨拶と応答の定着。
- ・正しく美しい言葉遣いの定着。
- ・やる気、集中力、持続力を養う「立腰」の定着。
- ・旺盛なボランティア精神の育成。
- ・強い愛校心の育成（たてわり活動を活かして。）。
- ・「強い心」を育む体力の向上（縄ギネス・マラソン大会などを通して。）。

①教職員の資質向上

- ・校内研修体制の再構築
- ・外部研修会への積極的参加（府教育センター、国立附属小学校等）

②大学との連携

- ・個々の児童に合ったよりよい授業方法の追究
- ・学生による授業等への支援体制確立に向けての模索

③ICT教育の推進

- ・タブレット等の新しい情報機器の研究及び導入
- ・校内無線LANのできる環境作り

④中学校進学指導の強化

- ・補習（放課後）・講習（春期・夏期・冬期）の充実
- ・保護者への進学情報のより細やかな提供

(2) 放課後活動の充実

- ①城南アフタースクールの実施
- ②課外クラブの拡充（プログラミング教室・キッズダンス等）

(3) 幼稚園との連携（20名の進学者を確保するために）

- ①幼稚園児と児童の日常交流
- ②課外クラブの幼小連続化
- ③幼稚園保護者対象の授業公開
- ④幼稚園保護者対象の学校説明会実施
- ⑤小学校行事への参加依頼の強化

(4) 広報活動の強化

- ①近隣地区を重点としたチラシ等による情報発信
- ②見てもらえるホームページの工夫
- ③入試説明会の工夫
 - ・在籍児童の活用
 - ・年中児対象の体験入学
- ④他の私学と連携した広報活動の模索

3. 自己評価

(1) 組織 学校評価委員会（校長、教頭、事務局長、教務部部長、教務部副部長）

(2) 開催 令和3年2・3月

(3) 評価のために使用した資料

- ①令和2年度学校教育診断保護者アンケートの結果（資料①を参照）

- ・実施：令和3年2月
- ・対象：在校生の全保護者
- ②令和元年度学校教育診断教員アンケートの結果（資料②を参照）
 - ・実施：令和3年2月
 - ・対象：小学校教員
- ③その他
 - ・令和元年度学校経営方針
 - ・入学試験5か年の出願状況
 - ・令和3年度中学入試受験者合格者数

(4) 内容

- ①上の資料を基に、年度当初に教職員に示した「教育の基本方針と取り組みの重点」について、自己評価を行った。（下表）
- ②自己評価に基づき、学校関係者評価委員会の資料を作成した。

(5) 自己評価の結果

- ・評価（A. よくできた B. できた C. あまりできなかった D. できなかった）

目標と取り組みの重点 (P)	取り組みの状況 (D)	自己評価(C)
1. 実践力のある魅力ある子づくりをする		B
①挨拶・応答の実践 ア. スローガンを掲げて、門での挨拶活動を行う。 イ. 児童会による働きかけを行う。 ウ. 「挨拶・応答、言葉遣い」の標語・ポスターコンクールを実施する。	ア. 「挨拶・応答、日本一」を掲げて、児童会執行部、生活委員会による玄関での挨拶活動を実施したが、コロナ禍のため、大きな声での挨拶は推奨しなかった。 イ. 児童会による新しい工夫はできなかった。 ウ. 標語・ポスターコンクールに応募する機会を作り、応募作品や入賞作品の掲示・入賞作品の学校新聞での紹介をすることで、児童の意識向上に役立った。	①B ア. B イ. C ウ. A
②正しく美しい言葉遣いの定着 ア. 敬語、「くん、さん」・「ぼく、わたし」等を使えるようにする。 イ. 「挨拶・応答、言葉遣い」の標語・ポスターコンクールを実施する。	ア. 授業時間・休憩時間にかかわらず、児童への指導を行った。授業時間中については概ねできていたが、休憩時間中については、敬語、「くん、さん」・「ぼく、わたし」を使えていない児童も見られる等、課題が残った。 イ. 標語・ポスターコンクールに応募する機会を作り、応募作品や入賞作品の掲示・入賞作品の学校新聞での紹介をすることで、児童の意識向上に役立った。	②B ア. B イ. A
③「立腰教育」の実践 ア. 1日の中で、「立腰」を意識できるような工夫を行う。 イ. 年間を通して「立腰」を意識できるような工夫を行う。	ア. 朝に「立腰タイム」を実施、授業中の指導も行った。正しい姿勢で頑張れる児童は多いが、そうでない児童への継続した働きかけは必要である。 イ. コロナ禍のため、「立腰の歌」を歌うことは行わなかった。教師による声掛けを継続した。	③B ア. B イ. B
④ボランティア精神の育成 ア. ボランティア清掃に取り組む。 イ. 異年齢の人たちとの関わりの中でボランティア活動に取り組む。	ア. コロナ禍のため行事が削減され、各学年が宿泊訓練・校外学習で行ってきた清掃活動は実施できなかった。学校周辺の清掃活動もあまりできなかった。 イ. 2年生による1年生・年中児との交流会（お祭り）、図書委員会による保育園児・幼稚園児への絵本の読み聞かせ、保健委員会による幼稚園児への手洗い指導などの活動は見合わせた。たてわり活動も見合わせたことで、5・6年生が下級生を、4年生が1年生を、お世話をすることはできなかった。 ※学校教育診断：「ボランティア」教員3.5%→2.5%	④C ア. C イ. D
⑤「食へのこだわりを持つ」実践 ア. 「感謝」の心で食べることができるよう工夫を行う。 イ. 食への関心を高めていく工夫をする。	ア. 各クラスで「食」について話をしてきたが、教員アンケートでは肯定的回答がまだ6.5%台なので、できることを考えて実践していく。 イ. 学年での栽培や、芋掘りの際に、児童に考えさせることができたが、学年により差があった。食育をテーマとした講話は実施できなかった。 ※学校教育診断：「食育」保護者8.2%、教員6.5%	⑤B ア. B イ. B
⑥強い愛校心の育成 ア. リーダーシップ及びフォロワーシップを育み、愛校心を育てるために、たてわり活動を行う。	ア. コロナ禍のため、たてわり活動を実施しなかったため、異学年との交流・親睦を図ることや、リーダーシップ及びフォロワーシップの育成、愛校心を育てることにつなげることができなかった。3学期は、感染症対策をより徹底し、6年生と他学年との交流（一緒に遊ぶ、掃除する。）を実施した。	⑥D ア. D

	※学校教育診断：「愛校心」保護者93%、教員95%	
2. 進学校として実績を上げる		B
①「主体的・対話的で深い学び」の研究と推進 ア. 情報収集し、教員で情報共有するとともに、各教員が授業に取り入れていく。	ア. 「主体的・対話的で深い学び」について、各教員が授業で実践してきたが、全体での研修は十分にはできなかった。	①B ア. B
②ICT教育の推進 ア. 設備・機器を揃えとともに、授業で活用していく。	ア. 1人1台のタブレットを整備した。電子黒板、教材提示装置、タブレットをつなぎ、授業で活用できた。より良い活用の仕方について、研修を継続していく。	②A ア. A
③「プログラミング的思考」育成の研究と推進 ア. 情報収集し、教員で情報共有するとともに、各教員が授業に取り入れていく。	ア. 電子黒板、教材提示装置、タブレットをつなぎ、授業で活用できる体制になったが、教材活用の研修が継続して必要である。	③C ア. C
④漢字・計算の徹底習得 ア. 漢字の先取り学習、漢字・計算の復習を計画的に行う。 イ. 漢字検定に取り組む。	ア. 漢字の先取り学習（「読み」は4年生末までに、「書き」は5年生末までに習得）とともに、朝の計算を実施した。各学期末・年度末に漢字・計算の復習を行った。 イ. 年間3回（校内2回）、漢字検定に取り組んだ。試験の月は、漢検用の練習も行った。年度末には、該当学年級をほぼ合格できた。更に、該当学年級よりも上の級にチャレンジし、合格した児童もいた。	④B ア. A イ. B
⑤豊富な読書体験 ア. 読書記録をつけるとともに、励みになる工夫を行う。	※該当学年級よりも上の級の合格者は全体の3.3% ア. 読書記録（50冊分の読書が終わるごとに色の異なる表紙の読書記録をもらい記録していく）の実施と、100冊、200冊等、各到達冊数に至った児童名を通信で知らせる工夫を行い児童の励みとした。学年ごとの城南課題図書（各学年20冊ずつ）読破をクラス全員が達成したクラスが複数出た。500冊を読破した6年生は25名出た。 ※学校教育診断：「読書の推進」保護者95%、教員80%→95%	⑤A ア. A
⑥個々に応じた進路実現のためのきめ細かい指導 ア. 講習、特別講習、実力テスト等を実施する。 イ. 算数の習熟度別指導を実施する。	ア. 夏冬の講習、特別講習（6年生は月・水曜日に、5年生は3学期から実施）を行い学力の向上に役立てた。実力テスト（1～5年生1回、6年生5回）を実施し、6年生には個人データに基づく進路指導を行い、個々に応じた進路実現に役立てた。業者テストも採り入れた。 イ. 4～6年生算数の3段階別指導を実施した。学力の向上に役立った。 ※学校教育診断：「進路指導」保護者86%、教員80%→95%、「授業が楽しい」保護者91%、「授業がわかりやすい」保護者90%、「指導方法の工夫・改善」教員8.5%→10.0%	⑥A ア. A イ. A
⑦教職員研修（学級経営研修会・授業研究会・一般研修会）の実施 ア. 各種研修会を実施する。	ア. 学級経営・教科研修会（年40回）、授業研究会（全員参加の授業研究会は実施できず・自由参加のものは年10回）、一般研修会（年4回）を実施した。タブレットを導入したため、ICT中心の研修となった。授業や学級経営における教員の指導力向上につなげるため、更に内容を検討し、実施していく。 ※学校教育診断：「授業研究会等」教員85%→50%、「校内研修会」教員70%→55%	⑦C ア. C
3. 明るく、安全、自主性のある学校にする		B
①一生懸命体験の実践 ア. 各行事に一生懸命に取り組ませる。	ア. コロナ禍のため、行事を削減せざるを得なかったが、工夫して実施できたものについては、子どもたちの一生懸命さ、意欲を引き出した。	①B ア. B
②「学校いじめ基本方針」に基づく、いじめの未然防止		②B

<p>ア. 情報収集に努める。</p> <p>イ. 全教職員でいじめの未然防止に取り組む。</p>	<p>ア. 週末・月末・学期末にアンケートを実施し、情報収集に努めた。</p> <p>イ. 年度最初に「いじめは絶対に許さない」という宣言を行った。学級経営研修会では情報共有を行った。子どもたちの関係をより深くより迅速に把握することと、保護者対応について昨年度よりも前進した点はあったが、まだまだ検討すべき点も残った。</p> <p>※学校教育診断：「いじめや暴力のない学校作り」保護者 92%</p>	<p>ア. B</p> <p>イ. B</p>
<p>③人権にかかわる教育の実施</p> <p>ア. 道徳教育を推進する。</p> <p>イ. 人権教育の授業研究会を実施する。</p> <p>ウ. 人権についての標語・ポスターコンクールを実施する。</p>	<p>ア. 各学年、年間計画に基づいて道徳科の授業を実施した。コロナ禍での「児童の心のケア」にも力を入れた。</p> <p>イ. 各教科において、人権の観点を取り入れた授業を行ってきたが、人権教育の授業研究会は実施できなかった。</p> <p>ウ. 標語・ポスターコンクールに応募する機会を作り、応募作品や入賞作品の掲示・入賞作品の学校新聞での紹介をすることで、児童の意識向上に役立った。</p> <p>※学校教育診断：「人権の研究体制」教員 70%→50%、「人権の教育体制」教員 80%→50%</p>	<p>③C</p> <p>ア. C</p> <p>イ. D</p> <p>ウ. A</p>
<p>4. 「子どもと教師のきより」を縮める</p>		<p>B</p>
<p>①「励ましの言葉を多く」の実践</p> <p>ア. 共感、受容のカウンセリングマインドで児童の指導に当たる。</p>	<p>ア. 共感・受容のカウンセリングマインドで児童の指導にあたった。アンケートでは、保護者・教員ともに評価は高いといえるが、保護者の10%はそうでないと捉えているので、具体的な研修を来年度も実施していく。</p> <p>※学校教育診断：「共感、受容のカウンセリングマインド」保護者 91%、教員 85%→100%</p>	<p>①B</p> <p>ア. B</p>
<p>5. 「体力づくり」にこだわる</p>		<p>C</p>
<p>①「足、腰の鍛錬」の実践</p> <p>ア. 足、腰を鍛える運動を取り入れる。</p> <p>イ. 「縄ギネス」や「縄はげみ」に取り組む。</p> <p>ウ. 持久力を向上した上でマラソン大会に取り組む。</p>	<p>ア. 体育の授業に取り入れているが、毎回実施となると難しかった。</p> <p>イ. 体育の授業の中で、ウォーミングアップに縄跳びを取り入れた。どれだけ継続して跳べたかの「縄ギネス」の記録日を各学期2回、また、色々な技に挑戦する「縄はげみ」の検定日を各学期末に設けて取り組むことができた。</p> <p>ウ. 大会の1か月前から体育の時間を含めて毎日10分間走る時間を設ける予定だったが、コロナ禍のため実施できなかった。(マラソン大会は中止。) 持久力向上のため、縄運動は継続した。</p> <p>※学校教育診断：「体力の向上」保護者 90%、教員 100%→60%</p>	<p>①B</p> <p>ア. B</p> <p>イ. B</p> <p>ウ. D</p>
<p>6. 附属保育園・附属幼稚園・附属中高・大阪総合保育大学との連携</p>		<p>D</p>
<p>①附属保育園・附属幼稚園との連携</p> <p>ア. 園児対象の行事を実施する。</p> <p>イ. 保護者対象の行事を実施する。</p>	<p>ア. コロナ禍のため、例年実施していた年長児対象の授業見学、2年生による1年生・年中児との交流会(お祭り)、図書委員会による絵本の読み聞かせ、保健委員会による手洗い指導は実施しなかった。年中・年長児対象の体験入学への案内は行った。</p> <p>イ. 附属幼稚園年少・年中児保護者対象の授業見学会はできなかった。年長児保護者対象の説明会を行った。(内部進学者1.9名)</p>	<p>①C</p> <p>ア. D</p> <p>イ. C</p>
<p>②附属中高との連携</p> <p>ア. 情報交換会等を実施する。</p>	<p>ア. コロナ禍のため、例年実施していた情報交換会は行わなかった。中学校入試に際して、特待生の基準についての打ち合わせ、受験者についての情報交換は行った。中高の教育内容をより知るための、他の関わりも検討していく必要がある。(内部進学者3名)</p>	<p>②D</p> <p>ア. D</p>
<p>③大阪総合保育大学との連携</p> <p>ア. 大学の先生方の力を借りる。</p>	<p>ア. スクールカウンセラーを派遣してもらい、保護者とのカウンセリングを行うことができた。大学の先生の指導による授業研究会は、コロナ禍のため実施できなかった。コロナ禍でも連携できる点を検討していく。</p>	<p>③D</p> <p>ア. D</p>
<p>7. 募集状況の改善</p>		<p>B</p>

<p>①入学者数増のための工夫 ア. 体験入学や広報の仕方等の工夫を行う。</p>	<p>ア. 体験入学会の対象者を、年長児・年中児とした。幼稚園、塾訪問を年2～5回実施した。入試説明会案内チラシの4月からの配布、区の広報誌への広告掲載、卒業生へのパンフレット送付に加えて、フェイスブックなどSNSでの広告・発信を行った。しかし、更なる工夫をしなければならない。(入試結果：志願者数微増、入学者数微増。)</p>	<p>①B ア. B</p>
---	--	--------------------

4. 学校関係者評価

(1) 組織 学校関係者評価委員会（大阪総合保育大学学長、城南学園中学校・高等学校校長、城南学園幼稚園園長、保護者会会長、同窓会城楠会会長、地域代表、校長、教頭、事務局長、教務部部長・副部長）

(2) 開催 令和3年3月26日（金）

(3) 評価のために使用した資料
学校関係者評価委員会設置要綱、自己評価の結果及び学校評価委員会で使用した資料

(4) 内容
①校長及び教頭から、自己評価の結果を報告し、質疑応答と協議を行った。
②結果を学校評価委員会でまとめた。

(5) 学校関係者評価委員会のまとめ

①意見・感想等

(入学志願者を増やすために)

- ・入学者増に向けての新しい取り組みが必要である。
- ・学校の宣伝について、SNSに頼りすぎるとよくない。手作り感のあるものでアピールしていくとよい。
- ・附属幼稚園から19名の入学者があった。附属幼稚園との連携をより密にしていくことが大切である。

(校種間の連携強化のために)

- ・大学と小学校との関わりについて、小学校への学生の派遣を模索していく。
- ・附属幼稚園から小学校に入学する子どもに対して、附属幼稚園と小学校が連携し教育の一貫性を持たせることが大切である。
- ・「たてわり活動」について、小学校の中だけでなく、附属保育園、附属幼稚園、附属中高、大学と広げていくことも考えていく。

(教育活動について)

- ・大きな行事が中止される中、日々の学校生活の中で楽しさを実感できる機会が数多くあれば、「行事はできなかったけれど、こんなことができて良かった。」と感ずることができる。
- ・「挨拶」について、外部の方へ進んで挨拶することができるなど、これまでの取り組みの成果が出てきていると感ずる。
- ・「挨拶」「立腰」について、叱られるからするのではなく、進んでしようという意識が出てきたように思う。
- ・「建学の精神」のもと、大事にしていることは、これからも続けていくべきである。
- ・ICTについて、日本は世界から遅れているので、ICTへの対応を進めていく。
- ・「食育」については、身の回りのことと結びつけて取り組んでいくとよい。

◎コロナ禍の中、できなかったことばかりをクローズアップすることなく、できたことを大切にしていくと、教員がよりポジティブに物事に取り組んでいくことができる。

②まとめ

「自己評価の結果」では、概ね「できた」との評価となったが、「ボランティア精神の育成」「人権に関わる教育の実施」「体力作り」「教職員研修の実施」「附属保育園・附属幼稚園・附属中高・大学との連携」に課題が残った。

「入学者を増やすための工夫」については、総合学園の強みをいかし、大阪総合保育大学や他部署の各専門家からのアドバイスを受けるなどの連携を図ることが大切である。在学児童の保護者の評価は高いので、城南学園小学校の良さをいかに学外の方に伝えていくかの方策を考え実践していく必要がある。

保護者アンケートをみると、概ね、保護者の方には、肯定的に捉えていただいている。しかし、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と答えておられる保護者の方も少なからずおられることから、気を引き締めて、これからも改善に取り組んでほしい。アンケートの否定的な回答にも目を向けて、取り組んでいくことが改善につながっていく。

自己評価の分析結果、及び、教員による年度末反省であがってきた課題についても、学年・校務分掌など、各部門で慎重に検討し、教員全員でその対応を協議・強化していくよう小学校へ要望した。

5. 今後の改善方策（Action）

（令和3年度に向けて）

『コロナ禍でも、できることを考え、チャレンジ！』

- (1) 実践力のある魅力ある子づくりをする
 - ①挨拶・応答の実践の工夫を行う。
 - ・「スローガンを掲げて、門での挨拶活動を行う。」「児童会による働きかけを行う。」「『挨拶・応答・言葉遣い』の標語・ポスターコンクールを実施する。」等の実施。
 - ②正しく美しい言葉遣いの定着の工夫を行う。
 - ・「敬語、『くん、さん』・『ぼく、わたし』等を使えるようにする。」「『挨拶・応答・言葉遣い』の標語・ポスターコンクールを実施する。」等の実施。
 - ③「立腰教育」の実践の工夫を行う。
 - ・「1日の中で、「立腰」を意識できるような工夫を行う。」「年間を通して『立腰』を意識できるような工夫を行う。」等の実施。
 - ④ボランティア精神の育成を行う。
 - ・「ボランティア清掃に取り組む。」「異年齢の人たちとの関わりの中でボランティア活動に取り組む。」等の実施。
 - ⑤「食へのこだわりを持つ」実践の工夫を行う。
 - ・「『感謝』の心で食べることができるよう工夫を行う。」「食への関心を高めていく工夫をする。」等の実施。
 - ⑥強い愛校心の育成の工夫を行う。
 - ・「リーダーシップ及びフォロワーシップを育み、愛校心を育てるために、たてわり活動を行う。」「愛校心育成の工夫を行う。」等の実施。
- (2) 進学校として実績を上げる
 - ①「主体的・対話的で深い学び」の研究と推進を行う。
 - ・「情報収集し、教員で情報共有するとともに、各教員が授業に取り入れていく。」等の実施。
 - ②ICT教育の推進を行う。
 - ・「設備・機器を揃えるとともに、授業で活用していく。」等の実施。
 - ③「プログラミング的思考」育成の研究と推進を行う。
 - ・「情報収集し、教員で情報共有するとともに、各教員が授業に取り入れていく。」等の実施。
 - ④漢字・計算の徹底習得を行う。
 - ・「漢字の先取り学習、漢字・計算の復習を計画的に行う。」「漢字検定に取り組む。」等の実施。
 - ⑤豊富な読書体験を行う。
 - ・「読書記録をつけるとともに、励みになる工夫を行う。」等の実施。
 - ⑥個々に応じた進路実現のためのきめ細かい指導を行う。
 - ・「講習、特別講習、実力テスト等を実施する。」「算数の習熟度別指導を実施する。」等の実施。
 - ⑦教職員研修（学級経営研修会・授業研究会・一般研修会）を行う。
 - ・「各種研修会を実施する。」等の実施。
- (3) 明るく、安全、自主性のある学校にする
 - ①一生懸命体験を行う。
 - ・「各行事に一生懸命に取り組ませる。」等の実施。
 - ②「学校いじめ基本方針」に基づく、いじめの未然防止を行う。
 - ・「情報収集に努める。」「全教職員でいじめの未然防止に取り組む。」等の実施。
 - ③人権にかかわる教育を行う。
 - ・「道徳教育を推進する。」「人権教育の授業研究会を実施する。」「人権についての標語・ポスターコンクールを実施する。」等の実施。
- (4) 「子どもと教師のきより」を縮める
 - ①「励ましの言葉を多く」を実践する。
 - ・「共感、受容のカウンセリングマインドで児童の指導に当たる。」等の実施。
- (5) 「体力づくり」にこだわる
 - ①「足、腰の鍛錬」を実践する。
 - ・「足、腰を鍛える運動を取り入れる。」「『縄ギネス』や『縄はげみ』に取り組む。」「持久力を向上した上でマラソン大会に取り組む。」等の実施。
- (6) 附属保育園・附属幼稚園・附属中高・大阪総合保育大学との連携を進める
 - ①附属保育園・附属幼稚園と連携する。
 - ・「園児対象の行事を実施する。」「保護者対象の行事を実施する。」等の実施。
 - ②附属中高と連携する。
 - ・「情報交換会等を実施する。」等の実施。
 - ③大阪総合保育大学と連携する。
 - ・「大学の先生方の力を借りる。」等の実施。
- (7) 募集状況の改善を図る
 - ①入学者数増のための工夫を行う。
 - ・「体験入学や広報の仕方等の工夫を行う。」等の実施。

(資料①)

学校教育診断（保護者用）アンケート結果のまとめ（令和2年度末）

○実施日

令和3年2月

○調査対象

保護者254名/256名（無記名で回収・回収率99.2%）

○結果の分析

- ※「肯定的回答（肯）」とは、アンケートにおいて、「よくあてはまる」「ややあてはまる」とを合わせた数値である。
- ※「否定的回答（否）」とは、アンケートにおいて、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」とを合わせた数値である。

・「肯定的回答」が90%を超えるのは、

- ①「4 地震や台風などの対応について、子どもや保護者に行動マニュアルが知らされている。（肯・約97.2%）」
 - ②「3 学校は教育情報について、学級通信、懇談会、ホームページなどによる提供の努力をしている。（肯・約95.7%）」
 - ②「13 学校は、タブレットパソコン、電子黒板などのICT機器を授業で活用している。（約95.7%）」
 - ④「10 学校は、子どもの間違った行動に対し、適切に指導している。（肯・約95.3%）」
 - ⑤「7 学校は、読書指導に力を入れている。（肯・約94.9%）」
 - ⑥「1 学校は、建学の精神・教育方針をわかりやすく伝えている。（肯・約94.5%）」
 - ⑦「2 子どもは、学校に誇りを持っている。（肯・約93.3%）」
 - ⑧「5 学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。（肯・約91.7%）」
 - ⑨「12 学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている。（肯・約91.3%）」
 - ⑨「14 子どもは、授業が楽しいと言っている。（肯・約91.3%）」
 - ⑩「11 学校は、共感、受容などの態度で、子どもの指導にあたっている。（肯・約90.9%）」
- の11項目である。

・「1 学校は、建学の精神・教育方針をわかりやすく伝えている。（肯・昨年度約97.0%→約94.5%）」「2 子どもは、学校に誇りを持っている。（肯・昨年度約96.2%→今年度約93.3%）」について、それぞれ3ポイント程度低下した。今年度は小学校創立70周年を迎える年であり、児童・保護者へ働きかける大きなチャンスであった。しかし、コロナ禍のため、70周年記念行事も中止・縮小せざるを得なくなり、大きくアピールすることはできなかった。来年度は、児童が「学校に対しての誇り」を更に持つことができるよう、情熱を持って働きかけていく。

・「7 学校は、読書指導に力を入れている。（肯・約94.9%）」の項目の評価は高い。また、教員アンケートの「読書の推進」が「肯・昨年度80%→今年度95%」と15ポイント上昇している。コロナ禍であっても貸し出しを行うための方法を考え実施したり、図書委員会による読み聞かせのための動画作成を支援したりするなど、教員の意識の向上が見られる。引き続き、読書の好きな児童を増やすための取り組みを考えていく。

・「生徒指導」に関する4項目「5 学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。（肯・約91.7%）」「10 学校は、子どもの間違った行動に対し、適切に指導している。（肯・約95.3%）」「11 学校は、共感、受容などの態度で、子どもの指導にあたっている。（肯・約90.9%）」「12 学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている。（肯・約91.3%）」は、いずれも90%台で、今年度も評価は高いといえる。特に「5 学校は、いじめや暴力のない、……。」「10 学校は、子どもの間違った行動に対し、……。」は、過去6年間で最高の数値である。しかし、約1割の20人を超える否定的回答の項目があるので、引き続き改善に努めていく。

・「13 学校は、タブレットパソコン、電子黒板などのICT機器を授業で活用している。（約95.7%）」の項目を、今年度から取り入れた。1人1台のタブレットパソコンを3学期から導入し、授業で活用している。来年度は、更に良い活用ができるように研修を進めていく。

・「肯定的回答」が80%を超えるのは、

- ①「8 学校は、体力の向上に力を入れている。（肯・約89.8%）」
 - ①「15 子どもは、授業がわかりやすいと言っている。（肯・約89.8%）」
 - ③「9 学校のクラブ活動は活発である。（肯・約83.5%）」
 - ④「6 学校は、食へのこだわりを持つように指導している。（肯・約82.3%）」
- の4項目である。

・「14 子どもは、授業が楽しいと言っている。（肯・約91.3%）」は、昨年度とほぼ同じだが、「15 子どもは、授業がわかりやすいと言っている。（肯・昨年度約91.7%→今年度約89.8%）」の項目は、90%を下回った。1年間の取り組みを見直し、次年度に向けてより良い授業を構築していく。

・「9 学校のクラブ活動は活発である。（肯・昨年度約78.0%→今年度約83.5%）」は、昨年度から約6ポイント上昇した。コロナ禍ではあるが、子どもたちが活動できるように工夫をして進めたことが良かったと考える。来年度も工夫をしながら実施していく。

・「6 学校は、食へのこだわりを持つように指導している。（肯・約82.3%）」は、昨年度とほぼ変わらない。教員アンケートでも、「健康・食に関する指導（肯・昨年度60%→今年度65%）」と、評価は大きく上昇していない。今年度、栄養士によるお話を聞く会を実施することができなかったため、リモートやビデオなど、他の方法を検討していく。また、各教員による児童への働き掛けも大切なため、日頃からの児童への働き掛けを継続していく。

・「肯定的回答」が、80%を切るのは、

- ①「16 学校は、将来の進路や職業などについて、適切な指導を行っている。」

(肯・昨年度約 86.0%→今年度約 77.6%)」の 1 項目である。

・「16 学校は、将来の進路や職業など……。 (肯・昨年度約 86.0%→今年度約 77.6%)」については、昨年度から約 8 ポイント低下している。例年実施してきた「お話を聞く会」(外部講師や本校教員、家族の方などから、年間 20 人に話を聞く活動)や、医師、弁護士、建設業者など、様々な職業の方を招いてお話を伺う機会が大幅に減ってしまった。新年度は、リモートやビデオなど、新たな方法を検討していく。

・概ね、保護者には、肯定的に捉えていただいているが、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と答えておられる保護者の方も少なからずおられることから、気を引き締めてこれからも改善に取り組んでいく所存である。

・内部の評価が高い割には、児童募集増にはつながっていない。本校の良さをいかに外部に伝えていくかが大きな課題である。今年度からフェイスブックやインスタグラムの活用を始めたが、新年度も新たな具体策を検討し実施していく。

(資料②)

学校教育診断(教員用) アンケート結果のまとめ(令和 2 年度末)

○実施日 令和 3 年 2 月
○調査対象 教員 20 名(常勤・無記名・回収率 100%)
○結果の分析

※「肯定的回答(肯)」とは、アンケートにおいて、「よくあてはまる」「ややあてはまる」とを合わせた数値である。

※「否定的回答(否)」とは、アンケートにおいて、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」とを合わせた数値である。

I 学校運営

・「肯定的回答」が 70%を超えるのは、「建学の精神(肯・100%)」「ホームページ活用(肯・100%)」「愛校心(肯・95%)」「教育計画(肯・75%)」「危機管理対応(肯・75%)」「教員・教科間連携(肯・70%)」「危機管理の役割分担(肯・70%)」の 7 項目である。

・「建学の精神(肯・100%)」「ホームページ活用(肯・100%)」「愛校心(肯・95%)」の 3 項目の評価が高い。「ホームページ活用(肯・100%)」については、コロナ禍の中であったが、本年度も学校生活における児童の様子をホームページでこまめに紹介していったことや、フェイスブック、インスタグラムの活用も始めたことが、高い評価につながっていると考える。

・教員の「建学の精神(肯・100%)」「愛校心(肯・95%)」はともに高い。保護者アンケートの「建学の精神(肯・約 94.5%)」「愛校心(肯・約 93.3%)」もともに高いが、昨年度からそれぞれ 3 ポイント程度低下している。今年度は小学校創立 70 周年を迎える年であり、児童・保護者へ働きかける大きなチャンスであった。しかし、コロナ禍のため、70 周年記念行事も中止・縮小せざるを得なくなり、大きくアピールすることはできなかった。来年度は、児童が「学校に対しての誇り」を更に持つことができるよう、情熱を持って働きかけていく。

・「教員・教科間連携(肯・一昨年度 80%→昨年度 65%→今年度 70%)」は、一昨年度の数値には戻っていない。ICT 関連での教員間連携は図られたが、教科間については不十分だった。教科間についてもしっかりと連携していく。

・「肯定的回答」が 70%を下回るものの中で、「財務に関する意識(肯・一昨年度約 45%→昨年度 55%→今年度 65%)」については、少しずつだが上がってきている。志願者数の伸び悩みの中、タブレット購入など ICT 関連での経費増加もあり、教員の関心も高くなっている。引き続き、学園広報での説明とともに、教員への情報提供をわかりやすく行っていく。

・「会議の有効性(肯・一昨年度 55%→昨年度 60%→今年度 65%)」については、少しずつ上がってきている。コロナ禍の対応として朝当番があるため、教職員間の連絡を放課後に行っているが、朝に戻してはどうかという声も聞く。ICT を活用して上手く連絡できるようにしていく。会議については、ICT の活用や学校活性化策などについて教員の意見を広く聞くなど、時間を掛けるものを精選し会議を進めていく。

II 教育内容

・「肯定的回答」が 70%を超えるのは、「情報能力育成(肯・95%)」「読書の推進(肯・95%)」「児童会活動(肯・80%)」「芸術文化(肯・80%)」「情報モラルの指導(肯・70%)」「クラブ活動(肯・70%)」の 6 項目である。

・「情報能力育成(肯・昨年度 45%→今年度 95%)」については、昨年度よりも 50 ポイント上昇した。1 人 1 台のタブレットを導入し、授業に活用できていることが大きいといえる。しかし、「情報モラルの指導(肯・70%)」は昨年度と変わらない。昨年度から取り組んでいる低学年からの具体的な情報モラルの指導について、更にしっかりと取り組んでいく。

・「読書の推進(肯・昨年度 80%→今年度 95%)」については、15 ポイント上昇した。コロナ禍の中で、すぐには本の貸し出しができなかったが、対策を行うことで貸し出しを再開させ図書室の利用促進につなげることができた。また、図書委員会による読み聞かせのための動画作成も行った。

・「児童会活動(肯・昨年度 100%→今年度 80%)」については、昨年度よりも 20 ポイント低下した。コロナ禍で、幼稚園や保育園に出向いての読み聞かせや手洗い指導を中止するなど、活動が制限されてしまった。しかし、児童会・委員会による放送や動画を使っている活動など、密を避けての活動に工夫が見られた。次年度は、新たな活動や掲示物での啓発など、児童のアイデアを支援していく。

・「芸術文化（肯・昨年度70%→今年度80%）」は、10ポイント上昇した。コロナ禍であったが、2部制にするなどの対応で、音楽鑑賞会や観劇会、器楽合唱クラブの演奏会を実施することができた。次年度も新しいアイデアを出し実施していく。

・「環境教育の実践的態度の育成（肯・65%）」「健康・食に関する指導（肯・65%）」「スポーツ（肯・昨年度100%→今年度60%）」「人権教育の研究体制（肯・昨年度70%→今年度50%）」「人権教育の教育体制（肯・昨年度80%→今年度50%）」「国際理解（肯・35%）」「環境問題意識の向上（肯・昨年度50%→今年度30%）」「ボランティア（肯・25%）」の8項目は、「肯定的回答」が70%を下回っている。

・「環境教育の実践的態度の育成（肯・65%）」は、コロナ禍の中で、クラスでの清掃の機会は大幅に増えたが、たてわり活動での清掃がなくなったこともあり、ポイントの上昇は見られない。清掃方法について丁寧に指導していくとともに、もう一つの観点である「施設・設備を大切に使う」点についても力を入れていく。

・「健康・食に関する指導（肯・65%）」については、あまり変化がない。各教員による児童への働き掛けが大切だと考えるので、日頃からの児童への働き掛けを継続していく。

・「スポーツ（肯・昨年度100%→今年度60%）」については、40ポイントの低下となった。コロナ禍の中で活動が制限されてしまったが、次年度は、活動に工夫を加え継続してできるものを増やしていく。

・「人権教育の教育体制（肯・昨年度80%→今年度50%）」は30ポイント低下した。また、「人権教育の研究体制（肯・昨年度70%→今年度50%）」は、昨年度から20ポイント低下した。コロナ禍の中、感染者や医療従事者の方々などへの差別・偏見について時間を取り、子どもたちと共に考え話し合った。しかし、道徳科の授業研究会を実施することはできなかった。次年度は、様々な課題や指導方法について研究し、児童の意識を高める学習方法を実践していく。

・「国際理解（肯・35%）」について、4～6年生の英語の授業時間は増やしたが、コロナ禍のため、外国の方とふれ合う英語校外学習、英語体験学習は実施できなかった。オンラインでの対話など、コロナ禍の中でもできることを考えて進めていく。

・「環境問題意識の向上（肯・昨年度50%→今年度30%）」は、昨年度から20ポイント低下した。児童会の呼びかけによる「エコキャップ運動」だけでは十分な学習とはいえない。SDGs（持続可能な開発目標）について取り組み始めた学年もあるので、SDGsに関連させた取り組みが全学年でできないか検討し進めていく。

・「ボランティア（肯・25%）」については、コロナ禍の中、「ボランティア清掃」はあまりできなかった。「清掃」以外の内容を考え出して実践していくことが大切だが、進んでいない。まず1つを決めて実施していく。

Ⅲ生徒指導・支援

・「肯定的回答」が70%を超えるのは、『生徒指導』の「指導方針の一貫性（肯・100%）」「家庭との連携状況（肯・100%）」「生活面の指導（肯・95%）」、『児童支援』の「学習指導（肯・100%）」「カウンセリングマインドを取り入れた指導（肯・100%）」「進路指導（肯・95%）」の全6項目であった。

・『生徒指導』について、「指導方針の一貫性（肯・100%）」「家庭との連携状況（肯・100%）」とともに、「生活面の指導（肯・昨年度70%→今年度95%）」も高い水準となった。コロナ禍の中で、本校が力を入れてきた「児童の心と体のケア」「学力保障」について、各教員が進んで取り組んできた結果だと考える。個々に応じた対応ができるように更に研究を進めるとともに、トラブルの解決に向かって、担任1人だけでなく、学年の担任団や他学年の教員の力を借りるなどして、今後も家庭と連携しながら組織的に対応していく。

・『児童支援』について、「学習指導（肯・昨年度85%→今年度100%）」「カウンセリングマインドを取り入れた指導（肯・昨年度85%→今年度100%）」「進路指導（肯・昨年度80%→今年度95%）」は、ともに高い水準となった。学力の向上に大きな支援の必要な児童がいるが、継続的な取り組みとともに、指導方法の工夫・改善を行うことをこれからも継続していく。「カウンセリングマインドを取り入れた指導（肯・昨年度85%→今年度100%）」について、まだまだ教員の対応の質は上げることができると考えるので、「カウンセリングマインド」を取り入れた実践を全教員で進めていく。「進路指導（肯・昨年度80%→今年度95%）」では、低・中・高学年と、それぞれの年齢に合わせたキャリア教育についての更なる取り組みが必要であり、今後も検討し実践していく。

Ⅳ教員研修・資質向上

・「肯定的回答」が70%を下回ったのは、「校内研修（肯・55%）」「初任者のサポート（肯・55%）」「校外研修（肯・55%）」「研修成果の共有（肯・昨年度55%）」「教員の資質向上（教員間での授業内容の評価や意見交換など）（肯・50%）」の全5項目であった。

・「教員の資質向上（教員間での授業内容の評価や意見交換など）（肯・昨年度85%→今年度50%）」については、35ポイントも低下している。コロナ禍のため、授業研究会をほとんど実施できなかったことが大きな要因だと考える。次年度は、参観者の人数を検討した上で実施を考えていく。

・「校内研修（肯・昨年度70%→今年度55%）」は、15ポイント低下した。今年度はICT中心の研修会となったので、次年度は、教科も絡めた研修となるように、計画・実施していく。

・「初任者のサポート（肯・昨年度70%→今年度55%）」は、15ポイント低下した。初任者がいなかったため、教員の意識の低下があると思われる。また、経験の少ない教員へのサポートは、関係部署・管理職だけでは十分にはできないので、今後も、教員全員でサポートに取り組んでいく。

・「校外研修（肯・昨年度45%→今年度55%）」は、10ポイント上昇した。校外での研修会が中止となったが、代わりにリモートでの研修会が企画され、そちらの研修会に参加するケースが今年度は多くなったことがポイントの上昇につながったと思われる。次年度も教員への周知を行うとともに、研修会に出やすいようフォローしていく。

・「研修成果の共有（肯・昨年度50%→今年度55%）」は、あまり変化がない。研修成果の共有の場を設けることが十分ではないという結果なので、より共有できるように、共有の方法をしっかりと考えていく。